

令和4年度小平市立小平第一中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

話すこと・聞くこと、読むこと、言語の分野で全国平均を上回っている。特に記述式の問題形式では5%以上上回っており、考えたことを書こうとする意欲は高い。

課題

正答数分布を分析すると正答数10問から13問の生徒は全国平均より多いが、2問から5問の生徒も全国平均より多い、という二極化していることがわかる。今後は文脈に合わせて漢字を書く練習や書写の練習を積む必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

書くことについては、授業で文章を書く機会を増やしていく。短い文章を作ることから習慣化させ、書くことへの苦手意識を払拭できるようにする。

読むことについては、初見の文章に慣れるよう、定期的実践問題を解く時間を設け、長文読解へ慣れさせる。繰り返し実施する中で、徐々に読むスピードや正確さが向上していることを生徒自身が実感できるように工夫する。

【数学】

状況の分析

数学の教科において、数と式、関数の問題の正答率が全国平均よりも9%以上高い結果が得られた。また、図形領域に関しても5%以上高い結果が得られた。データの活用領域に関しては、全国平均よりも3%ほど低い結果だった。

課題

数と式、関数の領域においては、他の領域に比べ、優位性があるが、データの活用については全国平均を下回っているため、強化の余地が大いにありとされる。特にヒストグラム、箱ひげ図の問題における強化が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

今回の調査では、生徒の努力、積み重ねが良い結果となっているので、今までの本校の取組を継続したい。少人数、習熟度別授業の方法を維持し、授業における学習材料は各習熟度別グループの特性に合致したものを引き続き取り扱う。

また、現3年生では、標本調査の単元でヒストグラム、箱ひげ図の復習（用語理解、図形的理解、代数的解法）の復習を併せて行い（配当時間増）、データの活用の総合的な理解を高めていく。

【理科】

状況の分析

課題

平均正答率が東京都、全国よりもともに上回っている。化学・生物・地学領域では東京都、全国を上回ったが、物理領域ではやや下回った。また、記述式問題において、正答率が全国より4.4%、東京都より2.6%と大きく上回っていた。

物理領域については全国平均を下回っているため、強化の余地が大いにあると考えられる。特に「静電気」「つり合う力の矢印」「ばねが縮む長さは加える力の大きさに比例することを考察する」問題における強化が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

物理領域を苦手とする顕著な結果が出たため、物理領域を基本の重要語句の確認、物理の基礎実験の見直し、作図の確認、記述対策、入試問題と基礎から標準、応用へと総復習をする。また、本調査でも出題されたような身近な科学「タブレットのタッチパネルのしくみ」「水素電池」などを授業で取り扱う。

【質問紙】

状況の分析

課題

「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に「ほぼ毎日」と答えた生徒は、全国平均に比べて17%高かった。このことから、生徒・教員のICTへの意識が高いことが分かる。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に「よくしている」「ときどきしている」と答えた生徒の合計は、全国平均に比べて5.8%高かった。このことから、学習に対する意識も、平均よりも高いことが分かる。

「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」に「3時間以上」と答えた人が全国平均に比べ4, 5%高かった。また、「家庭での学習時間」に「1時間未満」と答えた人が25%以上いる。このことから、家庭学習が定着するよう家庭での電子機器のルールを作ることや変える必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

ゲームやスマートフォンを使用する時間が長時間であることと学習時間が不足していることについては関係性があると考えられる。保護者会などを通じて、適切なICT機器の使用について連携して指導する。

また、ICT機器への意識が高いことから、ICT機器を活用して、家庭学習の時間が増えるような教材、アプリなどを検討していく。